

7. 魅力向上策のとりまとめ

7.1 魅力向上策の見直し

先進事例調査②およびサウンディング調査の結果より、魅力向上策の見直しを行った。

※個別の魅力向上策への具体的な回答は、報告書の全体版を参照。

(1) 魅力向上策（規模大）において考慮すべき内容

1) 導入施設について

見直し方針

- ・ 事業者意見をふまえ、屋内テニスコート整備と管理棟の改修は行わず、舗装の改修のみとする。
- ・ 県道沿いを収益施設（事業）の設置可能範囲とする必要があるとの意見があるが、林間などの環境を活用する事業もあるため、一部の収益施設は駐車場等の近くに配置し、グランピングやアスレチックなど環境特性を活用する施設は必要な環境内に配置する、「5.2.2 魅力向上策の検討」において検討した魅力向上策と同様の配置とする。

<方針設定の背景>

先進事例調査②より

- ・ アスレチック施設、デジタルアート、VR 等を用いた屋内スポーツ施設は若い層に人気が高い。
- ・ 屋内プレーパークは、未就学児と小学生（とその保護者）の利用が多い。

サウンディング調査より

- ・ 利用者ニーズや事業費負担の考え方における県の意向によるが、近年の都市公園における民活事業としては、ほとんどの事業について実現できる可能性はあると回答されている。
- ・ プロジェクションマッピングのみ、一部将来的な利用ニーズが「見込まれない」とする回答があったが、その他の事業の将来的な利用ニーズは「見込まれる」もしくは「わからない」との回答となった。
- ・ 管理人員配置が難しいことと既存のテニスコート運営自体を縮小中であることから、屋内テニスコートや管理棟の改修は、明確に「可能性なし」とされている。
- ・ 収益施設（事業）の設置可能範囲は県道沿いにする必要があるという意見が挙げられた。
- ・ 子ども向けの屋内施設や高齢者向けの健康遊具、また健康増進に関する事業については今後需要が高まると考えられるとの意見が見られた。
- ・ デジタルコンテンツについては、リピート客を含めた利用ニーズの確保のためには定期的なコンテンツの入れ替えやパーソナライズ体験ができる内容とすること、また太閤山ランドでしか体験できないコンテンツとすることが重要との意見が見られた。

2) 整備内容について

見直し方針

- サウンディング調査をふまえ、プール広場の老朽化対策を実施する。
- 公園入口の魅力向上については、入口広場にインフォメーション・飲食機能強化として、公園案内や、視線が抜ける眺望を活用した飲食施設や物販施設を整備する。
- デジタルアート関連の事業の実施場所は、この場所でしか作れない「価値」を作ることを鑑みることが重要なため、太閤山ランドの人気施設でもあるプール広場と組みわせることがよいと考える。
- アーバンスポーツは気軽に利用できる都会的な環境が好まれるため、外規模な舗装面が広がる現ローラースケート場に配置する。
- 林間グランピングの実施場所は景観が重要視されるため、にぎわいの中心エリアから少し外れた、樹林地に配置する。

＜方針設定の背景＞

サウンディング調査より

- プール広場については老朽化対策が必要との意見があげられた。
- 公園入口部分の魅力向上が重要と考えるという意見があげられた。
- レジャーパーク関連の事業の多くの実施場所は、景観や自然環境、また来園者からの目の留まりやすさが重要視されること、特にI-1（大人向けアスレチックタワー）については、アクセス性や賑わいも重要視されることが確認された。
- 遊戯関連の事業の実施場所は、アクセス性や賑わいが重要視されることが確認された。
- デジタルアート関連の事業の実施場所は、この場所でしか作れない「価値」を作ることを鑑みて主に景観や自然環境が重要視されること、また中でもプロジェクションマッピングは賑わいも重要視されることが確認された。
- 特に事業内容の幅が広いニュースポーツ・デジタルスポーツやヘルスケア関連の事業の実施場所は、具体の事業内容に応じて重要視する点にもバラつきがあることが確認された。またアーバンスポーツは気軽に利用できる都会的な環境が好まれるの意見が見られた。
- 林間グランピングの実施場所は景観が重要視されることが確認された。

3) 夜間営業について

見直し方針

- ・ 全面的な整備を行った際の夜間営業の可能性について検討を行う。

<方針設定の背景>

サウンディング調査より

- ・ 営業時間の延長を求める意見が見られた。

(2) 魅力向上策（規模小）において考慮すべき内容

見直し方針

- ・ 現時点での可能性としてゼロではないとのことであったため、想定されるアイデアを魅力向上策（規模小）としてとりまとめる。

<方針設定の背景>

サウンディング調査より

- ・ 提示した事業アイデア例は、すべて現時点での可能性としてゼロではないという回答の傾向であった。

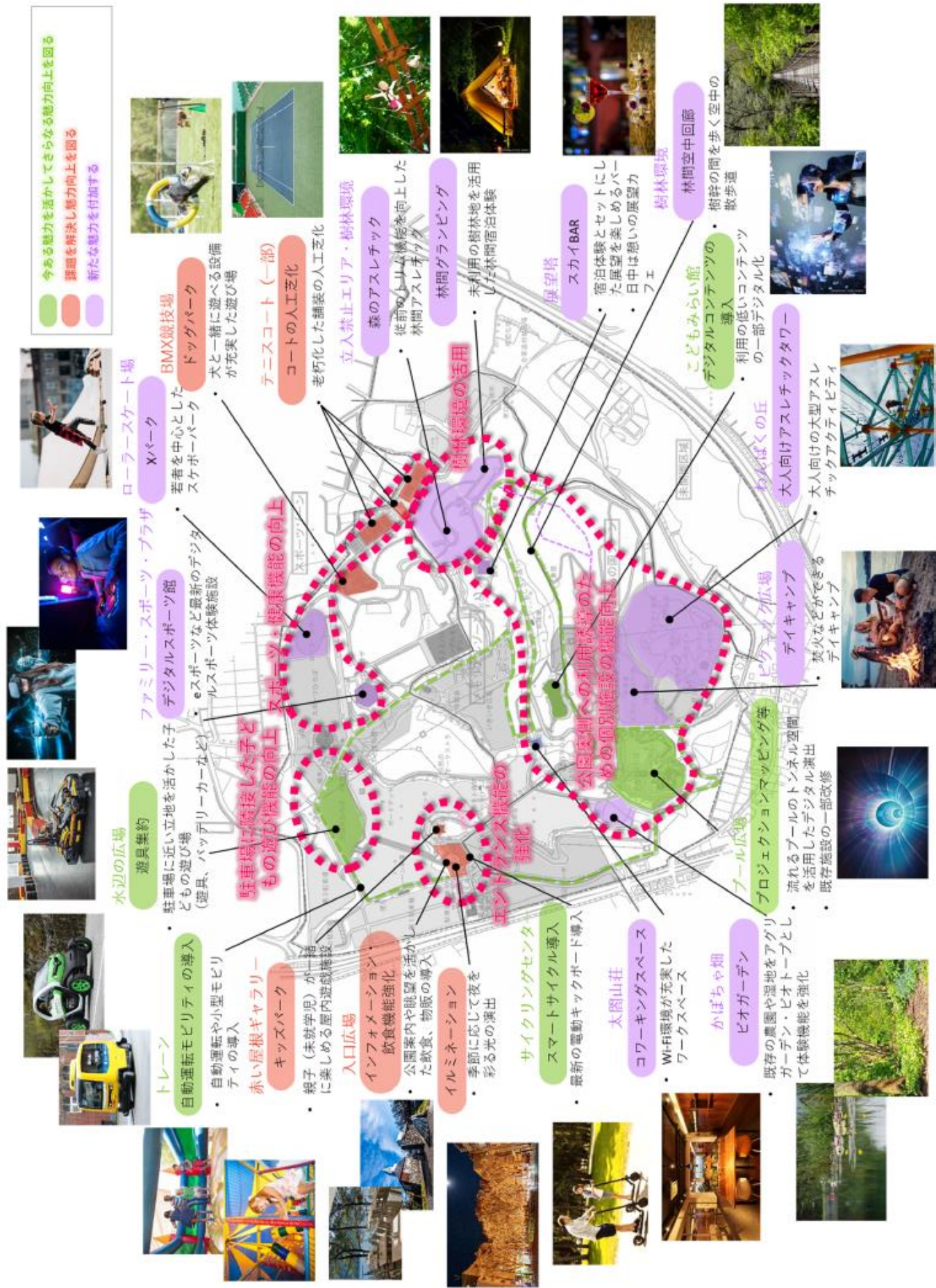
7.2 魅力向上策（規模大）

7.2.1 魅力向上策（規模大）

先進事例調査②の結果、およびサウンディング調査結果を踏まえ、下表および次ページのイメージのとおり整備内容を整理した。（変更点は赤字）

表 11 整備内容

	現状施設	整備内容					
		リフレッシュ (既存活用)	リバージョン (機能向上)	コンバージョン (機能変更)	新規	撤去	
今ある魅力を活かして さらなる魅力向上を図る	プール広場	プロジェクトマッピング →照明機材の設置 既存施設の改修					
	こどもみらい館	デジタルコンテンツの導入→設備設置					
	サイクリングセンター	施設の改修	スマートサイクルの導入				
	トレーン		自動運転モビリティの導入				
	水辺の広場	バッテリーカー、電動キックボード等の導入				遊具(集約) →子ども向け遊具の設置	
	園地全体	主な園路のバリアフリー対応 トイレのバリアフリー対応 サイン等の更新					
	虹のうきはし	改修（バリアフリー化）					
	入口広場					インフォメーションセンター 水辺のレストラン イルミネーション	バッテリーカー (移設)
	赤い屋根ギャラリー			未就学児向けキッズパーク →屋内大型遊具設置			
	テニスコート		舗装の人工芝化				
	BMX 競技場			ドッグパーク →フエンス、水飲み等の設置			●
	ドッグラン						●
	スカイプロムナード（未使用） ファミリー・スポーツ・プラザ				デジタルスポーツ館→設備設置		●
新たな魅力を付加する	展望塔			スカイ BAR&カフェ →カウンター設置			
	太閤山荘			コワーキングスペース			
	ローラースケート場			Xパーク→コース設置			
	わんぱくの丘			大人向けアスレチックタワー →大型遊具設置			既存遊具
	ピクニック広場	デイキャンプ利用（火気使用）					
	立入禁止エリア ・樹林環境					森のアスレチック→大型遊具設置 林間空中回廊→空中歩道設置 林間グランピング →基盤整備、グランピング設置	既存樹木
		かぼちゃ畑		ビオガーデン			



今ある魅力を活かしてさらなる魅力向上を図る
課題を解決し魅力向上を図る
新たな魅力を付加する

水辺の広場

遊具集約
駐車場に近しい地を活かした子どもの遊び場(遊具、バッテリーカーなど)

ファミリー・スポーツ・プラザ
デジタルスポーツ館
eスポーツなど最新のデジタルスポーツ体験施設

BMX競技場
ドッグパーク
犬と一緒に遊べる設備が充実した遊び場

テニスコート(一部)
コートの人工芝化
老朽化した舗装の人工芝化

立ち入り禁止エリア・樹林環境
森のアスレチック
従前のレクリエーションを向上した林間アスレチック

林間グランピング
未利用の樹林地を活用した林間宿泊体験

展望塔
スカイBAR
宿泊体験とセットにした展望を楽しめるパーク内には絶景の展望カフェ

林間空中回廊
樹幹の間を歩く空中の散歩道

こどもみらい館
デジタルコンテンツの導入
利用の低いコンテンツの一部デジタル化

わんぱくの丘
大人向けアスレチックタワー
大人向けの大型アスレチックアクティビティ

デイキャンプ
焚火などができるデイキャンプ

デジタルコンテンツの導入
利用の低いコンテンツの一部デジタル化

デジタルコンテンツの導入
利用の低いコンテンツの一部デジタル化

デジタルコンテンツの導入
利用の低いコンテンツの一部デジタル化

デジタルコンテンツの導入
利用の低いコンテンツの一部デジタル化

デジタルコンテンツの導入
利用の低いコンテンツの一部デジタル化

デジタルコンテンツの導入
利用の低いコンテンツの一部デジタル化

デジタルコンテンツの導入
利用の低いコンテンツの一部デジタル化

デジタルコンテンツの導入
利用の低いコンテンツの一部デジタル化

デジタルコンテンツの導入
利用の低いコンテンツの一部デジタル化

デジタルコンテンツの導入
利用の低いコンテンツの一部デジタル化

デジタルコンテンツの導入
利用の低いコンテンツの一部デジタル化

デジタルコンテンツの導入
利用の低いコンテンツの一部デジタル化

デジタルコンテンツの導入
利用の低いコンテンツの一部デジタル化

デジタルコンテンツの導入
利用の低いコンテンツの一部デジタル化

デジタルコンテンツの導入
利用の低いコンテンツの一部デジタル化

デジタルコンテンツの導入
利用の低いコンテンツの一部デジタル化

図9 魅力向上策(規模大) 整備イメージ図

7.2.2 法令上の規制等

(1) 魅力向上策の実現性検証

魅力向上策（規模大）について、下表のとおり都市計画法や都市公園法、富山県置県百年記念県民公園条例等の法令上の実現性を検証した。一部の施設については、整備や開業にあたり、整備内容等についての協議が必要となる。

1) 建蔽率の検証

建物種別ごとに建築面積を計測し、建蔽率を算出した結果、便益・管理施設等が 1.20%、運動・休養施設等が 1.13%となった。

都市公園法および施行令では、建蔽率の上限は、便益・管理施設等が 2%、運動・休養施設等が 10%と定められており、法律上問題ないと言える。なお、合計は 2.33%となる。

2) 運動施設率の検証

運動施設について面積を計測し、運動施設率を算出した結果、6.25%となった。

都市公園法施行令では、運動施設の敷地面積の総計は、都市公園の敷地面積の 50%を超えてはならないと定められており、法律上問題ないと言える。

(2) 夜間営業の検討

競合公園等における夜間営業の傾向や、夜間営業のメリット・デメリットを考慮し、夜間営業についての検討を行った。

1) 夜間営業によるメリット・デメリット

A) 夜間営業によるメリット

① 夜間営業ニーズへの対応

テレワークの広がりなどにより、ライフスタイルの多様化が進んでいる。公園についても多様化したニーズへの対応が期待されており、夜間営業のニーズも高まっていく可能性がある。

② 夜間環境を活用した集客施設の導入

キャンプやイルミネーションなど、夜間の環境を活用したコンテンツを導入することで、利用者の増加が見込める可能性がある。

③ 参入民間事業者の増加

飲食業など、民間事業者の業態によっては、夜間営業が望まれる場合がある。夜間営業ができるほうが、民間事業者の参入が増える可能性がある。

B) 夜間営業によるデメリット

①安全・防犯対策コストの増加

照明や立入禁止エリアのフェンス整備など、夜間の安全・防犯対策のための施設整備が必要となる。

②管理運営費用の増加

夜間営業にあたり、運営方法の変更や管理者の滞在時間の延長など、管理運営方法の見直しが必要となる。

③近隣住民の苦情の増加

夜間営業により、騒音や照明などに関して近隣住民からの苦情が発生する可能性がある。

2) 夜間営業の導入に向けた課題

夜間営業を導入するにあたり、以下の課題が想定される。

A) 条例の改正

「富山県置県百年記念県民公園条例」には、以下の記載があり、夜間営業を行う際には、条例の改正または知事の承認が必要となる。

(県民公園太閤山ランドの開園時間)

第10条の5 県民公園太閤山ランドの開園時間は、午前9時から午後5時まで(6月15日から9月15日までの期間において知事が定める期間にあっては、午前9時から午後6時まで)とする。ただし、指定管理者は、特に必要があると認めるときは、知事の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

(有料公園施設の供用日及び供用時間)

第10条の6 別表第2に掲げる有料公園施設(以下「有料公園施設」という。)の供用日及び供用時間は、別表第3のとおりとする。ただし、指定管理者は、特に必要があると認めるときは、知事の承認を得て、これらを変更し、又は臨時に利用に供しない日を定めることができる。

出典：富山県置県百年記念県民公園条例


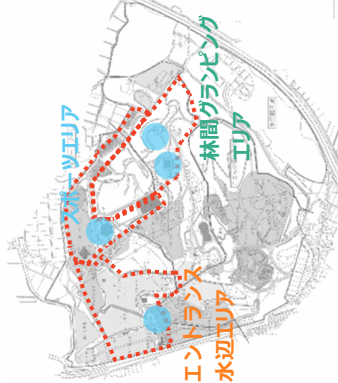

B) 要求水準書への記載の検討

民間事業者による整備を行う場合、要求水準書の公表時には、営業時間の指定や民間事業者の判断に委ねるなど、夜間営業の方針を設定しておく必要がある。

3) 夜間営業のパターン検討

夜間営業を以下の3パターンに分類し、それぞれのメリット・デメリットの検討を行った。

表 12 夜間営業のパターン検討

		①公園全体で夜間営業実施	②一部エリアのみ夜間営業実施	③一部施設のみ夜間営業実施
夜間営業範囲 イメージ □ 夜間営業エリア ● 夜間営業施設		 <p>林間グランピング、レストラン、スカイBAR、プロジェクションマッピング等の施設の夜間営業を行い、かつ立入禁止区域を除き園内全体を利用・通行可能とする</p>	 <p>林間グランピング、レストラン、スカイBAR等の施設の夜間営業を行い、かつ各施設の周辺エリアを利用可能とする</p>	 <p>レストラン等、エントランスまたは駐車場に近い施設の夜間営業を行う</p>
		公園全体で夜間営業可能とする	夜間営業施設とその周辺エリアを夜間営業可能とする	夜間営業する施設のみを夜間営業可能とする
	メリット	<p>◎ 散策など施設を限定せずより多様な利用ニーズに対応可能</p> <p>○ 夜間環境を活用したコンテンツを導入可能</p> <p>○ 公園との相乗効果を期待した事業者の参入が見込める</p>	<p>○ 施設とその周辺エリアを含め多様な利用ニーズに対応可能</p> <p>○ 夜間環境を活用したコンテンツを導入可能</p> <p>○ 公園との相乗効果を期待した事業者の参入が見込める</p>	<p>△ 利用が施設に限定され、公園利用ニーズには対応できない</p> <p>○ 夜間環境を活用したコンテンツを導入可能</p> <p>△ 事業者の施設のみでの集客が求められる</p>
	デメリット	<p>△ 夜間営業する範囲が広く、安全・防犯対策コストが最も大きい</p> <p>△ 夜間営業する範囲が広く、運営管理コストが最も大きい</p> <p>△ 夜間営業する範囲が広く、近隣への影響が最も大きい</p>	<p>○ エリアの設定次第で安全・防犯対策コストを調整できる</p> <p>○ エリアの設定次第で運営管理コストを調整できる</p> <p>○ エリアの設定次第で近隣への影響を低減できる</p>	<p>◎ 最小限の安全・防犯対策コストとなる</p> <p>◎ 最小限の運営管理コストとなる</p> <p>◎ 施設配置により近隣への影響を低減できる</p>
各パターンの特徴	より多様な利用ニーズへの対応が可能であるが、整備・運営管理コストが比較的大きく、苦情増加の可能性が高い。民間事業者とのコスト等の調整および近隣住民への説明がより重要となる。	比較的多様な利用ニーズへの対応が可能であり、整備・維持管理コストの増加や苦情にはゾーニング等である程度対応できると考えられる。民間事業者の意向をふまえ、コスト等の調整を行っていきやすいと考えられる。	施設利用で対応できる利用ニーズには対応でき、整備・維持管理コストの増加は比較的少なく、また苦情には施設配置等である程度対応できると考えられる。デメリットが小さい一方で、民間事業者の事業と公園との相乗効果は期待しづらいと考えられる。	
現時点の評価	民間事業者による整備・管理運営を導入する場合、夜間営業を導入することが望ましいと考えられる。夜間営業の範囲については民間事業者との調整が必要となるが、②一部エリアのみ夜間営業実施であれば、民間事業者との調整を行っていきやすいと想定される。			

7.3 魅力向上策（規模小）

サービス検討のポイントとして、「現在の魅力を維持させる」とした施設を中心に、施設やエリア毎に季節を踏まえ、大規模な整備等を行わない、もしくは整備不要な魅力向上策を、「規模小」・「季節限定」・「取組み場所を想定しない方策」として、以下の通り検討した。

(1) 取組み場所を想定した方策

表 13 魅力向上策（規模小・季節限定）

魅力向上の考え方	施設・エリア等	方法					
		季節限定	種類	内容	仮設	備品	改変なし
現在の魅力を維持させる	紫陽庵		リフレッシュ	コワーキングスペース（椅子や机の設置）		○	
	ふるさとパレス		機能の追加	休憩スペース快適性向上	○		
	ボートのりば		リフレッシュ	カヌー		○	
	バーベキューコーナー		リフレッシュ	テントの新調		○	
	スポーツ広場		機能の追加	仮設ストリートワークアウト器具		○	
	いきいき広場		イベント	グラススキー		○	
	せせらぎの道		リフレッシュ	仮設フアニチャーによる滞留場所	○		
	クリスタルゲレンデ		リフレッシュ	※令和4年度（2022）改修予定			○
イベントや仮設物で魅力を付加する	ふるさとパレス前		機能の追加	巨大チェス		○	
	樹林環境		機能の追加	林間ハンモック		○	
	新造池のほとり		リフレッシュ	縁台	○		
	ピクニック広場		イベント	アートイベント（巨大キャンパスなど）		○	
	入口広場	○	イベント	アート花壇		○	
	紫陽庵	○	イベント	鉢植えアジサイの栽培・販売		○	
	ボートのりば	○	イベント	夜間ボート・カヌーツアー		○	
	かぼちゃ畑	○	イベント	収穫体験		○	
	野外劇場	○	イベント	仮設野外シアター	○		
	ふるさとパレス前	○	イベント	仮設図書棚	○		
	ピクニック広場	○	イベント	スノーキャンドル		○	
			イベント	クロスカントリースキー		○	
クリスタルゲレンデ/ わんぱくの丘	○	イベント	雪そり		○		

魅力向上策（規模小）

現在の魅力を維持させる

イベントや仮設物で魅力を付加する



せせらぎの道
仮設フアニチャーターによる滞留場所

- 大人も子供も水辺で楽しめる道
- 水辺の利用者の分散

ポートのりば
カヌー

- 水辺の新たなアクティビティ
- 自然の中でのアクティビティ
- 人気の高まり

新造池のほとり
縁台

- 池と広場を眺めながらくつろげるスペース

いきいき広場
グラススキー

- 緩やかな芝の斜面を滑る夏のスキー
- 広大な芝の斜面の活用

スポーツ広場
仮設ストリートワークアウト器具

- 簡易な器具の設置で多様なトレーニングができるひろばに進化
- スポーツひろばの利用者層の増加

ふるさとパレス前
巨大チェス

- ゲーム性のあるコンテンツの導入
- 平坦で舗装されたスペースの活用

ふるさとパレス
休憩スペース快適性向上

- コートを眺めたり、思い思いの過ごし方ができる2階のスペース

立入禁止エリア・樹林環境
林間ハンモック

- 既存樹木を活用したハンモック

紫陽庵
コワーキングスペース（椅子や机の設置）

- 平日はシェアスペースとして自由な利用
- 多様な公園利用の促進

ピクニック広場
アートイベント（巨大キャンパスなど）

- 近隣の学校との協働によるアート作成

クリスタルゲレンデ
施設修繕

- 令和4年度（2022）改修予定

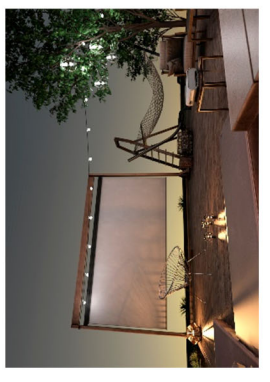
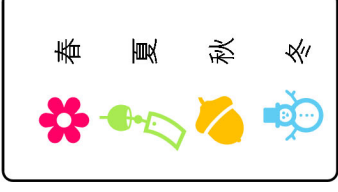
バーベキューコーナー
テントの新調

- お洒落テントで雨天時も楽しめるバーベキューコーナー
- 収穫体験×バーベキュー人気の高まり

図 10 魅力向上策（規模小） 整備イメージ図

魅力向上策（季節限定）

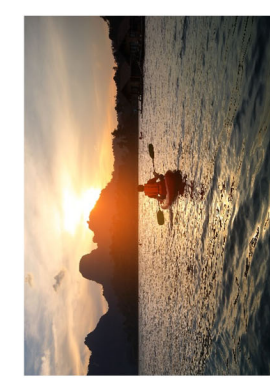
イベントや仮設物で魅力を付加する



野外劇場

仮設野外シアター

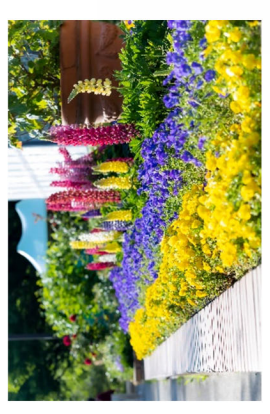
- 人気の野外シアターで芸術の秋を堪能



ボートのりば

夜間ボート・カヌーツアー

- ボートやカヌーなど環境を活用したアクティビティに、夜間利用で付加価値をつける



入り口広場

アート花壇

- 一年を通して季節に応じた花を咲かせる
- 花壇づくりワークショップの開催



かぼちゃ畑

収穫体験

- 季節の作物収穫体験×バーベキュー
- 収穫体験×バーベキュー人気の高まり



ふるさとパレス前

仮設図書棚

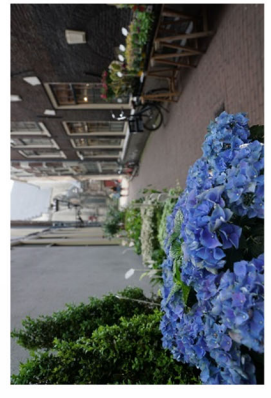
- 紅葉が綺麗な木の下で読書の秋を堪能
- 未利用スペースの活用



紫陽庵

鉢植えアジサイの栽培・販売

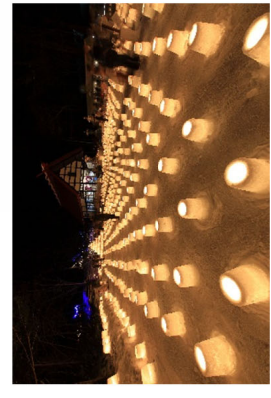
- 日本一の品種を誇るアジサイの鉢植え販売
- ガーデニングの定着



ピクニック広場

スノーキャンドル

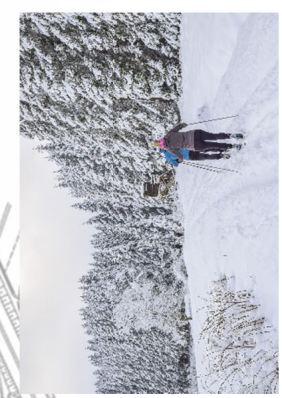
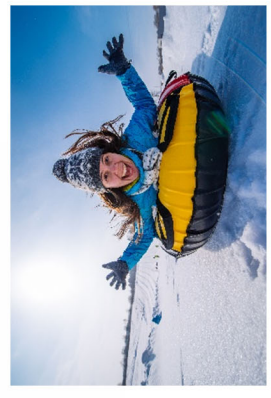
- エントランスから近い広場で雪の灯籠づくり



クリスマスタルゲレンデ / わんぱくの丘

雪そり

- 斜面を利用した天然の巨大すべり台



ピクニック広場

クロスカントリースキー

- 冬の公園をもっと楽しむアクティビティ

図 11 魅力向上策（季節限定） 整備イメージ図

(2) 取組み場所を限定しない方策

表 14 魅力向上策（取組み場所を想定しない方策）

魅力向上の考え方	エリア	方法					
		季節限定	種類	内容	仮設	備品	改変なし
イベントや仮設物で魅力を付加する	樹林		イベント	サバイバルキャンプ		○	
			機能の追加	ツリーテント	○		
			機能の追加	ハンモック		○	
			イベント	プレーパーク		○	
	広場		機能の追加	焚火ラウンジ		○	
			機能の追加	ビッグボール		○	
			イベント	逆バンジー	○		
			イベント	トランポリンキッズヨガ	○		
			イベント	いちにち動物村	○		
			イベント	フラワーアート	○		
	水辺		機能の追加	ウォーターボール		○	
			機能の追加	水上自転車		○	
			機能の追加	水上パーソナルクラフト		○	
	—		イベント	ヨガ			○
			機能の追加	サイクリングコースの仮設障害物	○		
			機能の追加	フィットネス×VR		○	
			イベント	ドローン体験・教室			○
			イベント	VR バンジー体験		○	
			イベント	超人スポーツ		○	
			イベント	アンブレラスカイ		○	
			イベント	ナイトフラワーパーク		○	
			イベント	モザイクアート		○	
		機能の追加	卓球台		○		
		機能の追加	ピアノ		○		
		機能の追加	キッチンカー	○			
		機能の追加	テントサウナ	○			
		イベント	花を活用した魅力づくり（季節のガーデン、フラワーアレンジメント体験など屋内での花のイベント）			○	

魅力向上策（取組み場所を限定しない方策）

イベントや仮設物で魅力を追加する

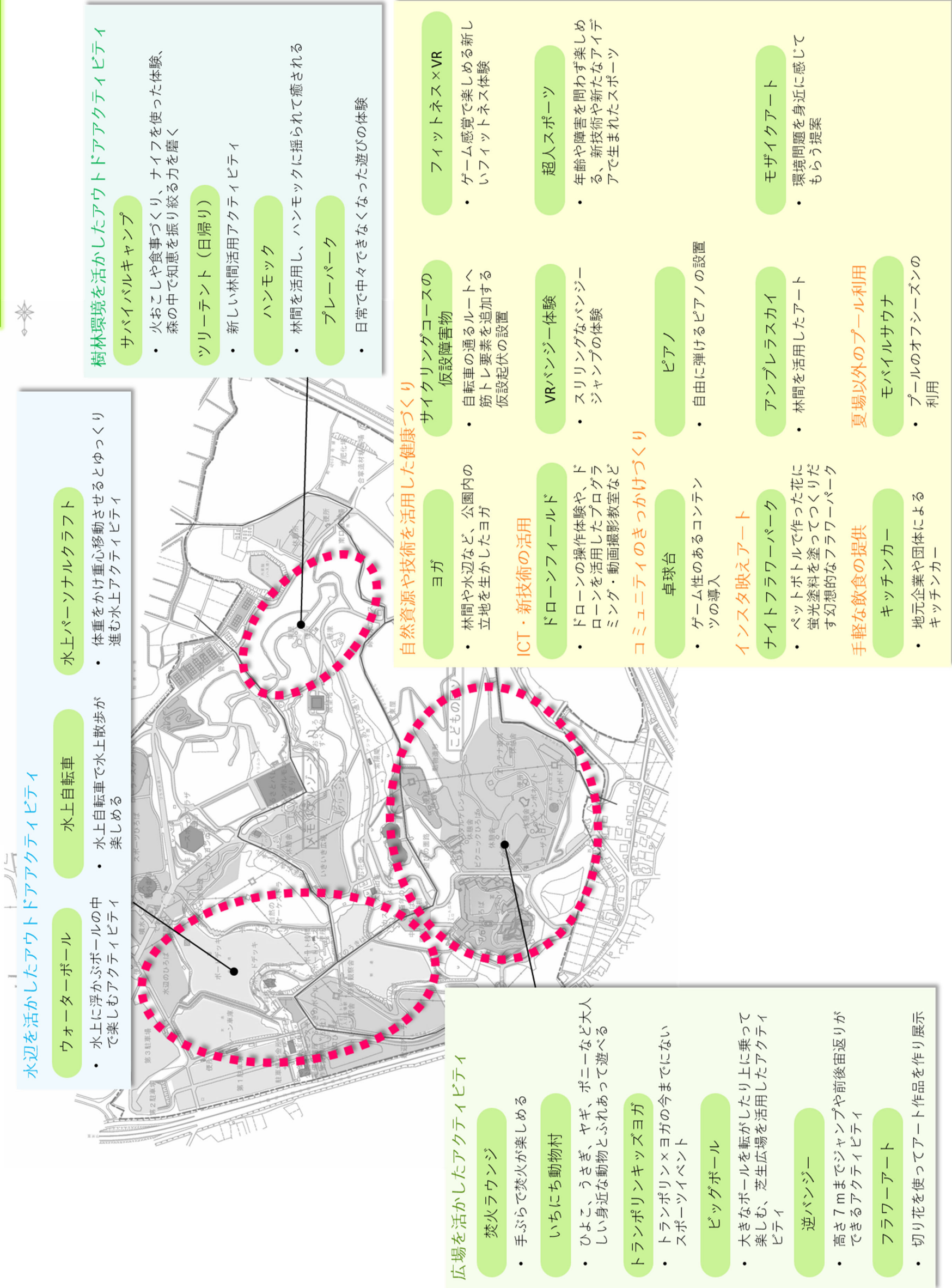


図 12 魅力向上策（取組み場所を限定しない方策） 整備イメージ図

7.4 管理運営に関する検討

(1) 管理のスマート化の検討

1) 管理のスマート化手法導入において考慮すべき内容

見直し方針

- 先進事例調査で管理のスマート化として整理した手法のうち、サウンディングで事業者からアイデアとして提案された以下の項目は、導入への期待が高い手法と考えられる。
 - ✓ デジタルサイネージによる情報提供
 - ✓ GPS や基地局などの情報やビーコン端末を活用した利用者動向・属性の把握
 - ✓ GPS や基地局などの情報を活用した公園内の混雑状況の把握
 - ✓ AI 画像解析による利用者の人数集計や不審行動検知、ドローンでの監視などの公園内監視
 - ✓ ドローンやロボットを活用した施設点検や植栽管理
- 県内事業者からの提案より、再生エネルギーや太陽光発電の活用は導入の可能性があると考えられる。

<方針設定の背景>

サウンディング調査より

- 園内の情報発信については、デジタルサイネージについて導入可能性があり、企業広告掲示が可能で収益化が見込めるのであれば活用の余地が拡がるとの意見が見られた。
- ドローン・ロボット等の導入等がアイデアとして挙げられた。
- 公園利用者の実態把握については、携帯や GPS などの位置情報を用いた広域の利用者動向の把握がアイデアとして挙げられた。
- 園内の情報発信では、センサーを活用した混雑状況可視化サービス、ビーコン端末を活用した来園者の属性分析などが提案された。
- 公園維持管理の効率化では、ドローンを活用した点検、植栽管理、監視が提案された。
- 公園利用者の実態把握では、AI 画像解析による利用者の人数集計、属性解析、空間内の滞留状況把握、不審行動検知等の取組みが提案された。

その他

- 県と県内事業者との協議にて、太閤山ランドにおける事業者と連携した再生エネルギーや太陽光発電の活用が提案された。

2) サウンディングをふまえた管理のスマート化手法の整理

サウンディング調査を踏まえ、太閤山ランドに導入できる管理のスマート化手法を下表のとおり再整理した。

新技術活用目的 ※新技術活用調査より、維持管理に関連する項目を抜粋	新技術活用方法 ※新技術活用調査より、維持管理に関連する項目を抜粋	新技術活用方法の内容 (例)	新技術のキーワード (例)	参考事例	管理手法	導入の検討の必要性				
						都市公園での推進が期待される	管理者が管理上で感じている問題の対応となる	事例より導入がまいると考えられる	サウンディング調査等より導入の可能性がある	概要
1 公園施設管理	市民からの通報受付における ICT 活用	公共施設などの不具合を市民がアプリで通報する	アプリ	ねりレボ	公共施設不具合通報アプリ	●		●	●	都市公園で適用可能であり、推進が期待される技術である 1)
	自動芝刈	ロボットが自動で充電・芝刈りを行う	ロボット	ロボット芝刈り機 Millimo (日比谷公園)	芝刈り用ロボット	●		●	●	都市公園で適用可能であり、推進が期待される技術である 1)
2 利用者実態把握	ドローン等を活用した点検・維持管理	ドローン空撮データを元に各種調査を行う	ドローン、ロボット、カメラ	弘法山公園 国営平城京跡歴史公園実証実験	ドローン、ロボット	●		●	●	都市公園で適用可能であり、推進が期待される技術である 1)
	携帯基地局データによる利用者移動・属性把握	人口密度、移動・滞在、居住地エリア、性別、年代等がわかる携帯電話基地局データを用い、利用者やイベント来場者等の分析を行う	携帯電話基地局データ	NTT ドコモモバイル空間統計	携帯電話基地局データ	●		●	●	都市公園で適用可能であり、推進が期待される技術である 1)
	公園内の混雑状況の把握	ネットワークカメラで撮影した映像から、指定した範囲の混雑状況を AI で把握する	ネットワークカメラ	新沢千塚古墳群公園実証実験	センサーおよび AI を搭載したネットワークカメラ			●	●	・三密を避けるため、空間内の人の動きを把握して、平時・災害時ともに過密を避けるよう人の行動を誘導することが求められる 2)
	公園内の監視	ネットワークカメラを活用し、オンラインでカメラの映像を確認できる。撮影方向が分かりにくく犯罪抑止になることもある	ネットワークカメラ、ドローン	千葉県市川市の公園	ネットワークカメラ、ドローン		●		●	・現状では監視カメラが足りず、各施設の利用状況やトラブルを管理事務所では把握できない 3) ・事件の際に警察から画像データを求められることが増えた 3)
3 来園者へのサービス提供	多言語案内	スマートフォン等で QR コードを読み取るだけで多言語に翻訳された案内を閲覧できる	ビーコン、QR コード、アプリ、多言語翻訳	奈良市の QR コード読み取り多言語翻訳	多言語翻訳 QR コード付き案内板	●		●	●	・公園で適用可能であり、推進が期待される技術である 1)
	デジタルサイネージ	電子的な表示機器を使って情報を提供する看板・掲示板である	デジタルサイネージ、センサー、クラウド	国営平城京跡歴史公園実証実験	デジタルサイネージ	●		●	●	・現状では掲示板の老朽化が進んでいる 3) 4) ・広大な園内の掲示物の変更に手間がかかっている 3)
	Wi-Fi 環境の提供	モバイル通信回線がない端末も利用できる、スマートフォンのパケット通信料の節約になるなどのメリットがある	Wi-Fi、公衆無線 LAN	新宿御苑	Wi-Fi、公衆無線 LAN	●		●	●	・利用が多い施設で Wi-Fi 環境の整備が望まれている 3) ・公園、広場などの緑やオープンスペースに、テレワークの作業場所としての活用が求められている 5)
4 その他	入園料金等徴収・収納業務における ICT の活用	AI カメラによる顔認証、QR コードの提示、IC カード等を利用することで、入園料金等徴収・収納をキャッシュレス化する	顔認証、AI、QR コード、IC カード、NFC	富士急ハイランド	顔認証カメラ キャッシュレス決済	●		●	●	・富士急ハイランドをはじめ集客性の高い施設等での導入が進んでいる
	検温技術 (コロナ対策)	顔認識 AI 技術とセンサーにより非接触の検温を行う	センサー、サーマルセンサ、AI	都立武蔵野の森公園	サーマルセンサ付き検温機	●		●	●	・発熱など体調不良時の公園利用は控えることが求められている 6) ・コロナ終息後も利用したいサービスとして非接触型の検温が上にある 7)
	再生可能エネルギーの導入や太陽電池発電施設の活用	公園での使用電力を再生可能エネルギーに切り替える、公園内に太陽電池発電施設を設置する	再生可能エネルギー、太陽光発電	東京都東部 7 公園	再生可能エネルギーへの切管	●		●	●	・2021 年、都立公園初の使用電力の 100%を再生可能エネルギーに切り替えが実施された ・国交省は、都市公園における再生可能エネルギーの設置等に伴う二酸化炭素排出削減対策に取組むとしている 8)

※太閤山ランドで導入が望ましいと考えられる根拠の典

1) 公園緑地 2021 年 10 月号 / (一社)日本公園緑地協会、2) 令和 3 年度観光白書/国土交通省、3) 管理者ヒアリング (令和 3 年 (2021) 10 月 22 日実施)、4) 現地調査 (令和 3 年 (2021) 10 月 22 日、23 日実施) 5) 新型コロナウイルス危機を契機としたまちづくりの方向性/国土交通省、6) 緑とオープンスペースをフル活用し、新型コロナウイルスに負けない健康的なライフスタイルへ/国土交通省、7) 令和 3 年情報通信白書/総務省、8) 都市公園における再生可能エネルギーの導入について/国土交通省

表 15 管理のスマート化手法の整理

7.5 今回の調査による魅力向上策

今回の調査による魅力向上策および管理のスマート化手法をイメージに示すと以下のとおりである。

表 16 今回の調査による魅力向上策

魅力向上の考え方	施設・エリア等	方法	
		種類	内容
さらなる魅力向上を図る 今ある魅力を活かして	プール広場	リフレッシュ	プロジェクションマッピング等
	こどもみらい館	リフレッシュ	デジタルコンテンツの導入
	サイクリングセンター	リノベーション	スマートサイクル導入
	トレーン	リノベーション	自動運転モビリティの導入
	水辺の広場	新規	遊具集約
課題を解決し 魅力向上を図る	入口広場	新規	インフォメーション・飲食機能強化 イルミネーション
	赤い屋根ギャラリー	コンバージョン	キッズパーク
	テニスコート	リノベーション	コートの人工芝化
	BMX 競技場	コンバージョン	ドッグパーク
切り口ごとに新たな魅力を付加する	ファミリー・スポーツ・プラザ	コンバージョン	デジタルスポーツ館
	展望塔	コンバージョン	スカイ BAR
	太閤山荘	コンバージョン	コワーキングスペース
	ローラースケート場	コンバージョン	X パーク
	わんぱくの丘	コンバージョン	大人向けアスレチックタワー
	ピクニック広場	リフレッシュ	デイキャンプ
	立ち入り禁止エリア・ 樹林環境	新規	森のアスレチック 林間グランピング 林間空中回廊
	かぼちゃ畑	リノベーション	ビオガーデン
現在の魅力を維持させる	紫陽庵	リフレッシュ	コワーキングスペース（椅子や机の設置）
	ふるさとパレス	機能の追加	休憩スペース快適性向上
	ボートのりば	リフレッシュ	カヌー
	バーベキューコーナー	リフレッシュ	テントの新調
	スポーツ広場	機能の追加	仮設ストリートワークアウト器具
	いきいき広場	イベント	グラススキー
	せせらぎの道	リフレッシュ	仮設ファニチャーによる滞留場所
	クリスタルゲレンデ	リフレッシュ	※令和4年度（2022）改修予定

魅力向上の考え方	施設・エリア等	方法	
		種類	内容
イベントや仮設物で魅力を付加する	ふるさとパレス前	機能の追加	巨大チェス
	樹林環境	機能の追加	林間ハンモック
	新造池のほとり	リフレッシュ	縁台
	ピクニック広場	イベント	アートイベント（巨大キャンパスなど）
	入口広場	イベント	アート花壇
	紫陽庵	イベント	鉢植えアジサイの栽培・販売
	ボートのりば	イベント	夜間ボート・カヌーツアー
	かぼちゃ畑	イベント	収穫体験
	野外劇場	イベント	仮設野外シアター
	ふるさとパレス前	イベント	仮設図書棚
	ピクニック広場	イベント	スノーキャンドル
		イベント	クロスカントリースキー
	クリスタルグレンデ/ わんぱくの丘	イベント	雪そり
	樹林	イベント	サバイバルキャンプ
		機能の追加	ツリーテント
		機能の追加	ハンモック
		イベント	プレーパーク
	広場	機能の追加	焚火ラウンジ
		機能の追加	ビッグボール
		イベント	逆バンジー
		イベント	トランポリンキッズヨガ
		イベント	いちにち動物村
		イベント	フラワーアート
	水辺	機能の追加	ウォーターボール
		機能の追加	水上自転車
		機能の追加	水上パーソナルクラフト
	—	イベント	ヨガ
		機能の追加	サイクリングコースの仮設障害物
		機能の追加	フィットネス×VR
		イベント	ドローン体験・教室
		イベント	VRバンジー体験
		イベント	超人スポーツ
イベント		アンブレラスカイ	
イベント		ナイトフラワーパーク	
イベント		モザイクアート	
機能の追加		卓球台	
機能の追加		ピアノ	
機能の追加		キッチンカー	
機能の追加		テントサウナ	

魅力向上の考え方	施設・エリア等	方法	
		種類	内容
		イベント	花を活用した魅力づくり（季節のガーデン、フラワーアレンジメント体験など屋内での花のイベント）
管理のスマート手法	—	公園施設管理	市民からの通報受付における ICT 活用
			自動芝刈
			ドローン等を活用した点検・維持管理
		利用者実態把握	携帯基地局データによる利用者移動・属性把握
			公園内の混雑状況の把握
			公園内の監視
			利用者動向の把握
		来園者へのサービス提供	多言語案内
			デジタルサイネージ
			Wi-Fi 環境の提供
		その他	入園料金等徴収・収納業務における ICT の活用
			検温技術（新型コロナウイルス感染症対策）
			再生可能エネルギーの導入や太陽電池発電施設の活用

太閤山ランドの魅力向上にあたり、現地調査や管理者ヒアリング、県民ニーズ、社会的なトレンド等を考慮したうえで、先進事例の調査結果を参考に、サービス検討のポイントに従って検討した魅力向上策を整理した。

なお、現在、行政の課題や地域の課題が複雑化、また多様化していることから、官民が連携して対応し、県民サービスの向上を図っていくこととしている。

このため、太閤山ランドの魅力向上策の検討にあたっては、県が単独で実施するものではなく、官民連携により実現できる可能性がある事業を選定した。

（実際の事業の実施やサービスの導入については、民間事業者の協力を要する。）

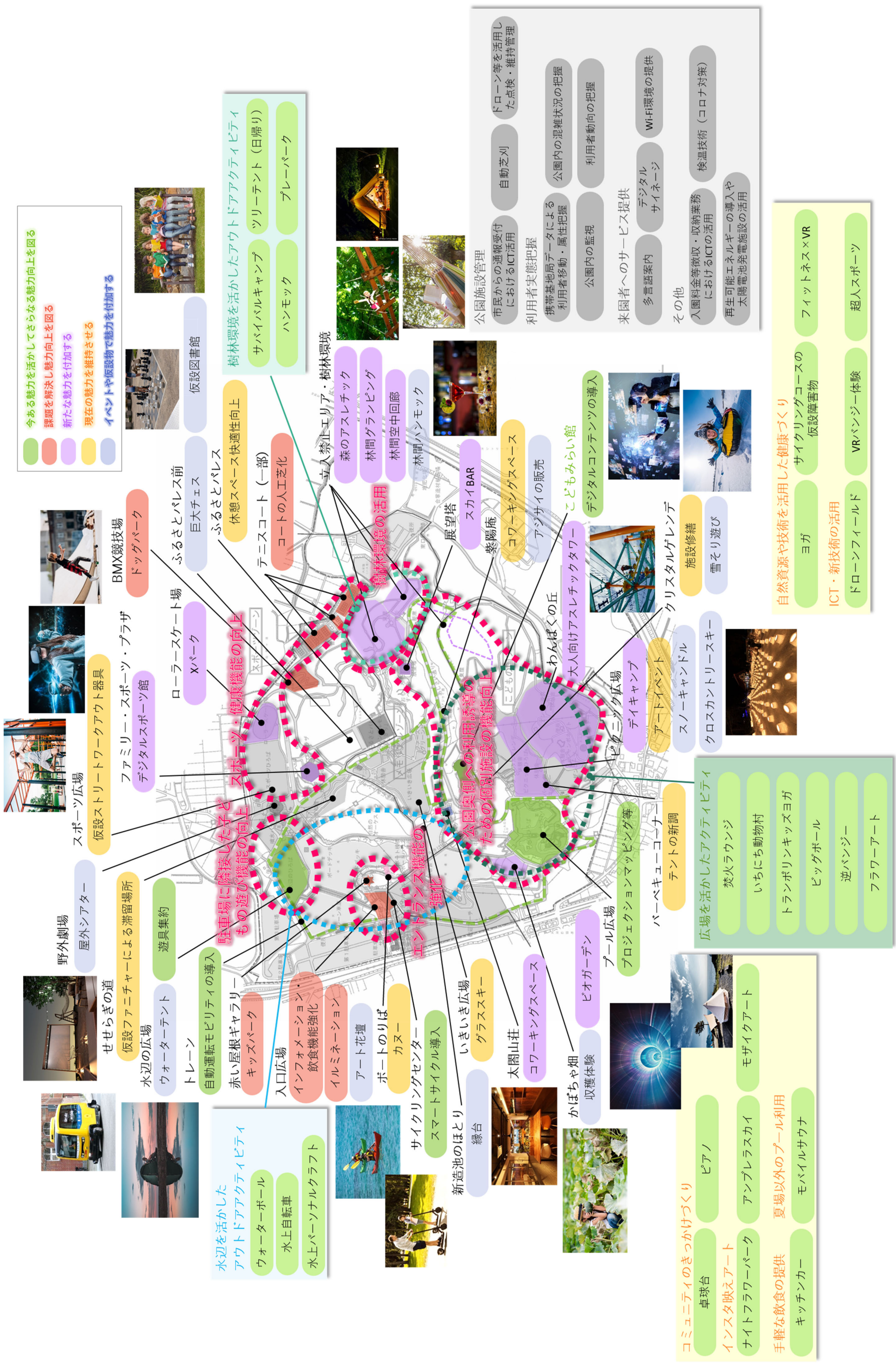


図 13 今回の調査による魅力向上策 整備イメージ図